HSK

ふきのとう文庫だより

No. 114

昭和48年1月13日第三種郵便物認可
HSK通巻番号552号
発行　平成30年3月10日
毎月10日発行　一部100円
編集　〒060-0006
札幌市中央区北6条西12丁目8番3
公益財団法人ふきのとう文庫
電 話(011)222－4839
FAX(011)222－4800
発行人　北海道障害者団体定期刊行物協会
細川久美子

小林静江名誉理事長を偲ぶ

公益財団法人ふきのとう文庫　代表理事　髙倉嗣昌

「ふきのとう文庫」の創設者小林静江名誉理事長が、昨年十二月九日、九十二才で他界されました。一昨年後半頃から食欲低下等で徐々に体力が衰え、自宅で眠るがごとき最期でした。

とうとうこんな日がきてしまいました。ここ数年は殆ど当文庫の運営には関わっておられませんでしたが、私にとっては何よりの心の支えであり、それを失った虚脱感に襲われております。

小林さんとの出合いは、私の人生で五本指に入る運命的なものであったと申せましょう。

私は社会教育という研究分野との関連で、札幌市内私学に多く開設されていた社会教育主事・司書・学芸員の養成コースを非常勤講師として担当していました時、学生と共に見学する施設を探しておりましたら、「今年（一九八二年）札幌市内に私立の子ども図書館ができた」との情報を得、大変驚き、それとばかりに学生を伴って見学に行ったのでお目にかかったのです。

そこで見たものは私がこれまで描いていた図書館像とは全く異なるもので、大変感銘を受けました。

私は当時の北海道大学医療技術短期大学部に在職していまして、布の本や拡大写本が、看護やリハビリの学生とも大いに関連があると思い、以後合わせて年に数回見学に訪れるようになりました。

そのうちに小林さんに注目されて、一九九四年に理事就任を求められ、お引き受けしたのです。

お引き受けする際、面白い一つの動機がありました。

数多く見学に訪れるうち、あの小林さん独特の口調で「札幌はダメね～！（小林さんは東京出身）新渡戸稲造が札幌で始めた『遠友夜学校』のような日本で先駆的な素晴らしいボランティア活動があったのに、さっぱり継承されていないじゃないの」と言われたことがありました。札幌生まれ、札幌育ちの私にとって挑発されたような気がしまして、「よーしやってやろうじゃないか」と思ったのです。

理事を拝命して後副理事長の役が新設され、その地位に就きましたが、さらに二〇〇四年に後を託されて二代目の理事長になりました。

その後十年を経て現在地に新築移転を実現することができましたが、それは、小林さんが蓄積してくれていた経済的基盤なくしては不可能でした。

小林さんが大変苦労して建てた自前の図書館を、移転の際あっさりすべて売却してしまったことは、私にとって大きな負い目です。

理事長の任に就いてやればやるほど、小林さんがいかに大きな存在であったかを実感させられるばかりです。

小林さんの生涯を総括すれば、「パイオニア人生」だったと申せましょう。

自分の力で図書館を建て運営したという経済面はもとより、それにも増して布の本を開発し、高度な腕を持った布の本の縫い手を心血注いで育成したことが特筆すべき業績です。

中央区移転後も課題は山積していますが、最大の課題は優秀な布の本の縫い手を多数得ることです。

針を持つことが苦手な人が増えているという時代背景などの困難がありますが、この課題を克服しなくては、小林さんの遺志を継承したことにはなりますまい。

公益財団法人の認可申請のおり、組織名称を「図書館」とするチャンスでしたが、あえて「文庫」を継承したのはそのような思いからです。

ご冥福をお祈り致しております。

平成三十年度の事業及び収支計画について

一、事業計画は、ここ数年来、前年を踏襲した計画が実行されており、前年の実績をさらに充実させていくということで、あらためて説明する点はありません。

二、収支計画については、平成二十九年度の実績が順調に進み、収入の大幅な増大を計画したいところですが、新規助成金の部分は確固たるものがあるわけでなく、平成三十年度は新規助成金獲得の目標を百万円にとどめておきました。

事業及び収支計画の達成に向けて努力してまいります。

平成30年度予算（平成29年度予算併記）

単位　千円

	30年度	29年度
賛助会費	2,600	2,600
寄付金（新規助成金を含む）	3,000	2,500
既存助成金	1,650	1,650
事業収入	2,210	2,795
雑収入	10	10
収入合計	**9,470**	**9,555**
管理費	5,930	5,875
事業費	3,540	3,680
支出合計	**9,470**	**9,555**
収支差益	**0**	**0**

平成三十年度事業計画

一、子ども図書館の運営

①子ども図書館の整備と貸出し
②病院文庫の拡充検討
③貸出し本の未返却防止作業継続
④子どもたちとの交流を大事に

二、布の本の製作

①貸出し用・販売用の布の本・遊具の製作
②布の本・遊具の材料セットの製作
③既存布の本の修理
④病院内の図書コーナーへの貸出し・寄贈

三、拡大写本の製作

①拡大写本の製作と貸出し
②弱視児童への拡大漢字本製作及び寄贈
③拡大図書の視覚支援校への配本

四、子ども催事事業

①お話の会　毎月開催　計十二回
②うたう会　毎月開催　計十二回
③手づくりあそび　五月・九月・三月　計三回
④人形劇　七月　計一回
⑤小学生のためのかたりの会　四月・七月・十月・一月　計四回
⑥医学生有志によるアンサンブル　六月　計一回
⑦世界の楽器店　九月　計一回
⑧クリスマス会　十二月　計一回

五、布の本・拡大写本等の普及活動

①製作講習会の開催（布の本のみ）
②ふきのとう文庫ホームページの活用
③ふきのとう文庫パンフレットの作成活用
④多目的室での展示会の開催

六、ボランティア研修

①現地施設等への実態見学
②経験者の新人指導

七、機関誌の発行

①ふきのとう文庫だよりの発行（年三回）

八、賛助会員の拡充

①賛助会員の拡大募集（機関誌・展示会・イベント・来館者）
②賛助会員拡大のための協力依頼（現、賛助会員）

九、交付金申請時の来館者目標達成

①年間来館者　二三、三六七人（一日　一一四人目標）
②自主目標　年間　一五、三七五人（一日　七五人）



図書係　関戸

新しい拡大写本できました

- かあちゃん　取扱説明書　いとう　みく　作
- おぼえていろよ　おおきな木　佐野　洋子　作
- 角川まんが学習シリーズ　山本　博文　編
  - 日本の歴史
  - ・平安時代　後期（全２冊）
  - ・鎌倉時代（全２冊）
  - ・室町時代　前期（全２冊）
  - ・室町時代　中期（戦国時代）（全２冊）
  - ・安土桃山時代（全２冊）
- おさるのまいにち　いとう　ひろし　作
- おしゃべりなカーテン（全２冊）　安房　直子　作
- ゆかいなハリネズミ　マックス（全２冊）　D.キング＝スミス　作
- 大村智ものがたり（全４冊）　馬場　錬成　作
- ふたりはきょうも　アーノルド・ローベル　作
- ゆきだるまのるんとぷん　たかどの　ほうこ　作
- 50点先生と27人の子どもたち（全２冊）　エリザベス・シュティーメルト　作
- モイくんとカボーくんのはなし　たかどの　ほうこ　作
- クモばんばとぎんのくつした　仁科　幸子　作
- トンネルの森（全３冊）　角野　栄子　作

布の本・拡大写本展示会　二月二十五日～二十八日

ふきのとう文庫が新築移転して二月二十三日で四年が経ちました。今年も四周年記念として「布の本・拡大写本」の展示会が行われました。壁には大きなタペストリーが並び、触って遊べる布のオモチャもあります。普段目にしない拡大写本はお母さんたちに感心を持って貰えました。エプロンシアターのおはなし会も好評でした。この展示会を目当てに来てくれた人も、本を借りに来て偶然入られた方も、それぞれ楽しんでいました。



子どものためのもよおし　予定表　30年度上半期

4月　1日(日)13時30分～「うたう会」
　　8日(日)13時30分～「小学生のためのかたりの会」
　　15日(日)13時30分～「おはなし会」
5月 13日(日)13時30分～「うたう会」
　　20日(日)13時30分～「おはなし会」
6月 10日(日)13時30分～「うたう会」
　　17日(日)13時30分～「おはなし会」
　　24日(日)13時30分～「医学生アンサンブル」
7月　1日(日)13時30分～「小学生のためのかたりの会」
　　8日(日)13時30分～「うたう会」
　　15日(日)13時30分～「おはなし会」
　　22日(日)13時～15時　「人形劇」とマスコット作り
　　29日(日)13時30分～「手づくりあそび」
8月 12日(日)13時30分～「うたう会」
　　19日(日)13時30分～「おはなし会」
　　26日(日)～29日(水)　「布の本展示会」
9月　9日(日)13時30分～「うたう会」
　　16日(日)13時30分～「おはなし会」
　　30日(日)10時～16時「世界の楽器展」



子どものためのもよおし　予定表　30年度下半期

10月7日(日)13時30分～「小学生のためのかたりの会」
　　8日(月)13時30分～「うたう会」
　　21日(日)13時30分～「おはなし会」
11月4日(日)13時30分～「うたう会」
　　11日（日）～14日（水）「木育ひろば」
　　18日(日)13時30分～「おはなし会」
　　25日(日)13時30分～「手づくりあそび」
12月2日(日)13時30分～「うたう会」
　　16日(日)13時30分～「おはなし会」
　　23日(日)11時～11時30分「クリスマス会」
1月14日(月)13時30分～「うたう会」
　　20日(日)13時30分～「おはなし会」
　　27日(日)13時30分～「小学生のためのかたりの会」
2月10日(日)13時30分～「手づくりあそび」
　　11日(月)13時30分～「うたう会」
　　17日(日)13時30分～「おはなし会」
　　24日(日)～27日(水)　布の本・拡大写本展示会
3月10日(日)13時30分～「うたう会」
　　17日(日)13時30分～「おはなし会」



小林静江名誉理事長の思い出

昨年十二月九日に、ふきのとう文庫の創設者、小林静江名誉理事長が逝去しました。九十二歳の長命ではありました。ふきのとう子ども図書館の多目的ホールで、その追悼の催しを一月二十二日から三十一日まで開催しました。祭壇を設け、初期のころの布の絵本、拡大写本などを展示しました。また、小林さんの経歴の一端をご紹介しました。新聞報道もあったことから多くの方々がお参りいただくことになりました。

今号では、その面影をたどりながら、長らく一緒に仕事をされていた方々のお別れの言葉など載せたいと思います。



まずは、たった一人で始められた手書きの「ふきのとう文庫だより」創刊号の抜粋を。

一九七四年十月二十日の日付がある最初の号は、以下のような内容でした。

在宅障がい児に家庭配本を

「読書の秋」ということばが、今年は冷たくひびく。本代の値上がりに加えて、今月から書籍の郵送料が四七％アップ。辺地の寝たきりの子どもに本の郵送貸し出しをしたいという夢がますます遠のく思いだ。そこで前々から細々とやっていた郵政法改正（重度身障者にも盲人と同様、図書並びにテープ図書の無料送付）の運動を八方破れの構えで展開した。

四日市、千葉、横浜、東京、埼玉、静岡の見知らぬ方からカンパが送られてきて、この次からは泣くまいと思っても有り難くてまた涙という有様。障がい児文庫を開設以来、励ましてくださった多くの方々の善意に答えるためにも私の力の範囲内で郵送貸し出しをしようと準備を進めている。

一方、公共図書館に対して、パスまたは郵送による家庭配本、郵政省に郵便法改正の請願を、長期戦覚悟で推し進めることは勿論だ。請願署名にもみなさまのお力添えを得たい。

よろこびとかなしみと

小樽市立病院小児科に文庫を設けたのは昨年十一月、札幌創成小学校訪問学級への貸し出しは十二月、小樽量徳小学校訪問学級へは今年の五月から利用してもらっている。電気の本を渡せない中、死んでしまった萩野君（十四歳　筋ジス）、その二ヶ月後の六月はじめ、「おおきなおおきなおいも」の本が好きだった政希ちゃん（五歳　白血病）が、そしてつい十日ほど前、「おばちゃんに会えなくなるから退院したくない」と言ってくれた清絵ちゃん（七歳　筋ジス）が短いいのちを閉じた。辛い思いの多い中で、貸し出しを手伝ってくれた樋口さんと村川さんがあいついで八月に出産！子どもがほしい人は文庫の手伝いへどうぞ。

＜経　歴＞

1948年	津田塾専門学校（現津田塾大）物理化学科卒業
1951年	岩波書店入社（主に児童図書出版部門担当）
1952年	北海道新聞記者・小林金三氏と結婚（以後２男１女を生み育てる）
1954年	岩波書店勤務時代東京に「働く母の会」を結成 保育所の開設、学童保育設立を展開
1966年	東京の自宅で文庫を開設
1970年	夫君の転勤で北海道江別市に転居 身体障がい児向け子ども文庫開設
1973年	小樽市に転居　小樽市立病院に「ふきのとう文庫開設」（日本初の病院文庫） 以後全国各地（約40ヶ所に）開設
1974年	ふきのとう文庫だより　創刊
1975年	札幌市に転居　「障害をもつ子どもと本の連絡会」を発足 「布の絵本」を現在のような形に開発し、次々作品発表（日本の布絵本第１号）
1976年	郵便料金値上げに直面「図書郵送の無料化を、求める国会請願」 結果、身体障害者団体の第三種郵便料金据え置き、身体障害者への書籍小包半額化が実現
1979年	北海道知事から財団法人設立許可受ける
1982年	札幌市西区平和に「ふきのとう子ども図書館」開館。拡大写本づくり開始
1990年	ふきのとう文庫15周年記念誌「春を呼べ！ふきのとう」刊行
2000年	ふきのとう文庫25周年記念誌「根を張れ！ふきのとう」刊行
2004年	理事長を副理事長高倉嗣昌に引き継ぎ勇退。名誉理事長となる。 以後も札幌市西区に在住
2017年	12月９日逝去（満92歳）

ありがとう!!

斉藤迪子

小林先生に初めてお会いしたのは、一九八二年に手稲平和に子ども図書館が建設された年です。

故篠尾先生に、布の絵本作る人が少ないので手伝ってほしいと依頼されたのがきっかけです。ボランティア活動などしたことがない私ができるかしら、不安な気持ちを抱きながら「平和の滝入口行」のバスに乗って図書館の門をたたきました。

山裾野に真白くかわいい建物、発寒川のせせらぎを聞きながら四季折々の風景に心身ともに癒してくれるような自然環境にすっかり魅せられ週二回、日曜日（事務的な仕事）と火曜日（布の絵本）に通うようにしました。

布の絵本作りには、菊水図書館にボランティアが集まって作っているから作り方の講習を受けてくださいと教えていただきました。

布の絵本作りをしていた時はたくさんのこと学ばせていただき、東京日比谷シティで開催された布の絵本連絡協議会研修会、地方のデパートで開催した布の絵本展等々、こちらではまだ知られていなかった「布の絵本」作り方講習会のチラシを作って出かけました。



私は布の絵本作りのボランティアをやめ、しばらくは別のボランティア活動を始めたのですが、「どうしても小林先生にお会いして学びたい、疲れた体を癒してくれるところに通いたい」と、図書係としてボランティアを日曜日だけ通うようにしました。そこで子どもたちの足を図書館に運んでいただくために「手づくり遊び」を提案され、はじめましたところ小学生の子どもたちがとても楽しみにしてくれたので毎年テーマ（からくり・飛ぶ・回る遊具）を決めて毎月行いました。参加する子どもたちの姿を見て喜んでいただきアドバイスなどもしてくれました。

手づくり遊びは毎月何もかも一人でしなければなりませんでしたから故前東先生が大変そうだからと「うたう会」と交互にするようになりとても楽になりました。

小林先生は理事長をお辞めになってからは私にとって忘れられない大切な人、人生の師として尊敬し、たくさんの事を教わりました。しばらくお伺いしないと、電話で「会いたいから来てほしい」と仰って、勇んで出かけると時間を忘れて話し込み、夕方になってようやくお暇をしようとすると、「泊まっていきなさいよ」と引き留められもしました。

この時の話の内容は、自分の夢と故石井桃子氏、故松谷みよ子氏等々有名作家との出会い、バージニア・リ・バートンとの出会いと「ちいさいおうち」が出版された時のこと、そして「ちいさいおうち」がふきのとう子ども図書館の建物へとつながっていくことなど、いつもいつも楽しい話題でいっぱいでした。

ご一緒に、ときに涙し、ときには大笑いして過ごしたあの時間はもう二度と来ないのだと思うと涙がとめどもなく頬を伝わります。

思い出はたくさんよみがえり、この紙面に書き尽くせないほどあります。

感謝‼感謝‼ただ、この言葉一言です。本当にありがとうございました。

どうぞ心安らかにお眠りください。合掌

ご主人の元へ旅立たれた小林静江様を偲んで

渡邊ミエ

昭和五十四年の春、ボランティアグループのお集りの折、上見先輩にお会いして初めて、ふきのとう文庫のお話をお聞きしました。

手仕事の大好きな私には、飛びつき渡り程のボランティア活動、早速講習会に出席させて頂き、初めて子供達の為に、布の絵本を製作し貸出している、文庫の活動を知りました。

小林様のお話をお聞きして、私のこれからは文庫の本作りのお手伝いをさせて頂く事だと、大きな喜びに出会えたのです。

義祖母、義父母を送り、私の自由な時間を布の本の製作に使えるのです。

その折より、三十八年間、誰かが下さったご褒美の様なボランティアでした。

主人を送り一人ポッチになって、十八年、私には時間が沢山有りました。

文庫の本作りをさせて頂いていなければ、淋しい、つまらない老後だったと思います。

小林様が始められた、ふきのとう文庫は、私には、布の本を使って下さる大勢の子供さんに、多くの喜びを届けられたと同時に、携わっている私に生きがいを下さった様に思えます。私も九十歳、一針一針楽しんで、製作しております。

文庫が此方に移られる前には、お宅に何度もお伺いし、お話を伺う事も出来ましたが、最近はお電話でのお付き合いになってしまいました。

私に生き甲斐を下さった、小林様に心より感謝申し上げます。

どうぞ安らかに、お眠り下さい。



館内イベント

多目的ホールでは年を通して楽しいイベントを行っています。恒例になっている「うたう会」「おはなしの会」をはじめ毎月の日曜日の午後にはお楽しみが待っています。

♫「木育ひろば」

昨年の十二月には、「北海道森と緑の会」が主催する「木育ひろば」が開催されました。今年で四回目となりますが、延べ四〇〇人の方々が遊びに来てくれました。





「木育マイスター」に教えてもらいながら、木を使った体験教室は大人気でした。「マイ箸づくり」はカンナで木を削りヤスリで仕上げます。子ども達は、初めてカンナを手にしながら悪戦苦闘。その他「しおり」「万年こよみ」「ぶんぶんこま」全て木を使ったおもちゃを手作りしました。ふきのとう文庫のメンバーによる「ふきのとうプレゼンツ」も行われ、エプロンシアター新作「大きなかぶ」や大型絵本の読み聞かせなどがあり、普段は手にできない「布の遊具」もたくさんあり、子どもたちは夢中になり遊んでいました。最終日には「赤ちゃん木育ひろば」が行われ木育のお話と、カスタネットづくりを親子で楽しみました。一年に一度の四日間は、ふきのとう文庫が木の香りでいっぱいになります。木の温かさに触れ、布の温もりを感じ、親子で楽しいひとときを過ごすことができました。



♫「クリスマス会」

多目的ホールに入りきれないほどの一一〇人を超える大勢の親子が来てくれました。今年度もクリスマスイブのイベントです。お日当てはサンタさんからのプレゼントかな。その前にみんなで大きな声でクリスマスソングを大合唱しました。「ジングルベル」「赤鼻のトナカイ」「サンタが街にやってきた」などです。おじいちゃんもおばあちゃんも歌います。最後に良い年を迎えられるように「お正月」を歌いました。盛り上がってきたところで、来てくれた皆さんにプレゼントが渡されました。



催事担当の斎藤迪子さんが手づくりした、心のこもったプレゼントです。子どもたちはニコニコ笑顔で受け取っています。一年間イベントに参加していただきありがとうございました。

♫ 新築移転四周年記念「腹話術バラエティーショー」

二月十二日記念行事として、腹話術愛好会「腹笑会」のお二人（伊藤善彬さん・鈴木賢一さん）による「腹話術・手品」が行われました。四十名の親子が訪れ初めてみる腹話術や手品に興味津々で見入っていました。「腹笑会」は札幌を拠点として活動し結成三十年を超え、定期公演や講習会や幼稚園などにも依頼公演を行っているグループです。最初は犬のおまわりさんが登場し、みんなで♪いぬのおまわりさん♪を歌いましょう。続いて手品です。綺麗なお花の手品やスカーフがステッキに早変わり、紙袋の中から箱がどんどん出てくる手品など、子どもたちは驚いて見ています。いよいよお待ちかねの「腹話術」では、「げんき君」が遊びに来てくれました。とっても物まねが得意です。お人形がお話したり歌を歌ったりと最初は怖がっていた子も最後は「げんき君と」仲良くなりました。



ご支援ありがとうございました。

平成29年11月以降賛助会費納入一覧

相原　靖子
岡本　幸子
川守田京子
黒木　克己
下村　愛
高倉実枝子
中園　陽子
西本　千春
林　直樹
七男
藤島　京子
亮一
森永美恵子
山本　静子
Mother's Space　ミーナ
カトリック北26条教会B地区有志
布絵本サークルどんぐり・水野美津子
北海学園大学同窓会
安藤　淑子
鍛治紀美子
小畑　和
桑原　佳子
高橋　光彦
沼田　維雄
平岡　徹
古川　順子
吉川　秀樹
学童保育所　えぞりすクラブ
リコージャパン（株）
岩城　信吉
亀井　健二
小山　忠弘
武次　徹也
橋本　岳大
平岡佳代子
古谷　次郎
淀川　敬子
植竹　俊光
川原　征一
佐々木順子
谷村　和子
濱崎　京子
福田　紀子
松岡　享子
植野　香雪
川村　智子
佐々木扶美子
富永　祥子
林　友子
藤木カヨコ
水野美津子

平成29年11月1日以降　寄附一覧

青山　千春
本間　道子
エイジス北海道（株）
株式会社　偕成社
桜陰学園生徒会
生活クラブ生活協同組合
藤徳（株）
ふたご座
ペリシア
ラウンジ「わ」
飯塚　卓治
佐々木扶美子
碓井トミ子
杉山　一夫
大野　信道

平成29年11月1日以降　寄贈一覧

11月1日　池田　康子　毛糸　多数
11月6日　JXTGホールディングス（株）　絵本　多数
11月5日　斉藤　迪子　ジョイントマット
11月19日　刈谷市中央図書館　児童書　1冊
11月20日　よしもとクリエイティブ・エージェンシー　書籍　1冊
八島　隆夫　オイルヒーター他
12月3日　前川　茂　ジョイントマット
12月10日　斉藤　迪子　クリスマスリース
トイレットペーパー　1箱
12月11日　コアレックス道栄（株）　書籍　3冊
12月17日　かもがわ出版・三輪ほう子　児童書　多数
1月22日　匿名希望　絵本　1冊
偕成社　絵本　3冊
1月19日　川端　誠　刺繍糸他
1月21日　前川　茂　毛糸
1月22日　猪股久美子　毛糸
豊島　和子
1月23日　学研　児童書　1冊
1月29日　童心社　絵本　1冊
2月4日　学研　児童書　1冊
2月9日　偕成社　絵本　1冊
2月12日　佐藤　康子　布の本
2月18日　童心社　絵本　4冊
2月25日　童心社　絵本　1冊
2月26日　中村テツ子　切手　多数
2月27日　NPO法人　ブックスタート　書籍　1冊

行事一覧

11月5日　第8回　うたう会
11月7日　中央図書館館長・白石絵本図書館館長他　見学
11月12日　ケーナ演奏会
11月14日　運営会議
11月17日　山梨県　都留文化大学　学生2名　見学
11月19日　生活クラブ「ほっとたいむ」
第8回　おはなし会
11月22日　札幌市発寒天狗東町内会　見学
11月26日～27日　こども学舎　見学　5名
12月3日　木育ひろば
第9回　うたう会
12月8日　北海道武蔵女子短大　14名　見学
12月9日　読売福祉文化賞贈呈式（東京）
12月10日　小林静江名誉理事長　逝去
第9回　おはなし会
12月15日　生活クラブ「ほっとたいむ」
12月17日　札幌国際大学　8名　見学
かもがわ出版東京オフィス他1名　見学
第10回　おはなし会
12月19日　運営会議
12月24日　クリスマス会
12月28日～1月6日　年末年始休館
1月14日　第11回　うたう会
1月19日　生活クラブ「ほっとたいむ」
1月21日　第11回　おはなし会
1月22日～31日　故小林静江追悼展示会
1月28日　運営会議
小学生のための語りの会
2月11日　第12回　うたう会
2月12日　腹笑会
2月14日　運営会議
2月16日　生活クラブ「ほっとたいむ」
2月17日　旭川短期大学布の本講習会　10名
2月18日　第12回　おはなし会
2月26日　札幌学院大学　8名見学
2月25日～28日　布の本・拡大写本展示会



図書係　関戸

「角丸切機」購入　拡大写本グループ

みずほ福祉財団からの助成金で「角丸切機」を購入しました。角丸は本のページをめくるときに目を傷つけないように、角を丸く切り落とす機械です。この導入により、寄贈本・貸出用本の角が丸くなり、顔を近づけないと読めない弱視の子どもに安全に本を読んでもらえることができます。館内の貸出用拡大写本も順次丸くしています。



―― 布の本テキスト・材料セット価格表 ――

材料セットには作り方説明書を同封しています。

テキストNo	布の絵本	テキストの価格	材料セットの価格
11	かくれんぼだあれ	1000円	販売終了
12	MY BOOK	1000円	3300円
	このいろなあに		3830円
13	のりもの	1000円	1600円
	だれのうち		3300円
14	Greeting	1000円	3000円
	おやつ		1700円
15	おかあさん	1000円	3000円
	どうぶつ		1800円
16	まる	1000円	3300円
	むし		2200円
17	ちいさいおおきい	1000円	3000円
	さかな		1700円
	新ドレミのうた	なし	5000円
	ちえあそび	なし	4570円
	わっ！	なし	1700円
	みにくいあひるのこ	なし	5860円
遊具	ジャンケンサイコロ	なし	600円
	どんぐりころころ	なし	4340円
	おむすびころりん	なし	5540円
	どうぶつとなかよし	なし	1600円
	おいしいね！	なし	1600円
	おはな	なし	1600円
	おやつはなあに？	なし	1600円
	のりたいな	なし	1600円
	うみのともだち	なし	1600円
	とりのなかま	なし	1600円
	どうぶつだいすき	なし	1600円
	とり	なし	1600円

多目的トイレの改修

以前から多目的ホールに併設されていた多目的トイレを車いす利用の方が広くゆったりとできるように改修しました。これは中央競馬馬主社会福祉財団の助成金でまかなわれています。今年度は施設の南側庭に屋根からの落雪を防ぐ「屋根の雪止め工事」も同じ助成金で改修することができました。快適でみんなが使いやすい施設に更に改善することが出来ました。ありがとうございました。



読売福祉文化賞受賞

新しい時代にふさわしい福祉活動を実践している団体などを顕彰する「読売福祉文化賞」（主催・読売光と愛の事業団、読売新聞社）の二〇一七年受賞者として当文庫が選ばれました。布の本や拡大写本の製作や貸し出しに力を入れている活動が認められました。



前号の訂正とお詫び

文庫だより一二三号で前庭の改修の状況をお知らせし、「ハナミズキ」と「フヨウ」も寄贈いただいたことを報告しましたが、西区平和の土田様の名前を上田とお伝えしてしまいました。訂正してお詫びいたします。今年はそれらの木々の成長を楽しみにしております。

あとがき

今号は、故小林名誉理事長の記事が多く載ることになりましたが、あらためて初代理事長が自宅で始められた子ども文庫の理念を考えさせられました。既にその設立から半世紀近くが経って、子どもたちを取り巻く社会環境も変化してきています。しかし、すべての子どもたちが平等に、本と親しめることが出来る環境をつくりだしていこうという考え方は変わりません。これからもこの理念に基づき、そして新たな目標を定めて進めていくのだろうと思っています。この文庫だよりはその経過のお知らせとみなさまのお力添えを得るための通信紙です。今後ともよろしくお願いします。

編　集　公益財団法人ふきのとう文庫
代表理事　髙　倉　嗣　昌

〒060-0006 札幌市中央区北６条西12丁目８
☎ 011－222－4839　FAX 011－222－4800
http://www.fukinotou.org
E-mail:fukinotoubunko@ceres.ocn.ne.jp
平成30年3月10日　発行
毎月10日発行一部100円（維持会費に含む）

昭和48年１月13日　第３種郵便物認可
HSK 通巻552号
発行人　北海道障害者団体定期刊行物協会
細　川　久美子

郵便振替＝02720-3-2300　銀行口座＝北洋銀行本店営業部普通預金　0035764　公益財団法人ふきのとう文庫

この機関誌は、“北海道共同募金会の配分”により刊行しています。
維持会員・寄付者のみなさん、ありがとうございました。